



さいたま市

資料 2 -1

現庁舎地利活用について考える 市民ワークショップ

さいたま市

都市戦略本部
都市局

都市経営戦略部
都心整備課

1 日目



本日の進行について

1. ワークショップについて
2. (仮称) 浦和駅周辺まちづくりビジョンについて
3. 新庁舎整備等の検討経緯について
4. 本日のワークショップのテーマ

1 ワークショップについて

「浦和駅周辺のまちづくり」や「現庁舎地の利活用策」について、様々なご意見やアイデアを伺うため、市民の方々による「ワークショップ」を開催するものです。



本日の進行について

1日目

現庁舎地及び周
辺エリアのまちの
魅力について
話し合おう！

1日目
グループ
発表

2日目

現庁舎地にあっ
たらよいもの・
サービスについて
考えよう

2日目
グループ
発表



2 (仮称) 浦和駅周辺まちづくり ビジョンについて



埼玉県庁

- ・明治4年に埼玉県が誕生
- ・浦和に埼玉県庁が置かれたのち、
 - 埼玉裁判所
 - 埼玉県師範学校
 - 埼玉會館
- など、様々な施設が建設され、**県都としてのまちづくりが進みま**した。



埼玉県庁（埼玉県写真帖（昭和9年発行））
出典：さいたま市アーカイブズセンターHP

埼玉会館

- ・大正15年に創設。
- ・渋沢栄一が中心となり誕生した昭和天皇「御成婚記念埼玉會館」
- ・日本の公共ホールの先駆けとなった。
- ・現在の施設は、前川國男氏の設計による県立の多目的ホール。



埼玉会館（埼玉県写真帖（昭和9年発行））
出典：さいたま市アーカイブズセンターHP



出典：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団HP

鳳翔閣

- ・埼玉県師範学校（埼玉大学教育学部の前身）の校舎。
- ・太政大臣・三條実美によって「鳳翔閣」と命名。
- ・浦和レッズのエンブレムにもデザイン。



昭和34年2月 鳳翔閣
出典：さいたま市アーカイブズセンターHP

現庁舎地周辺の現状②

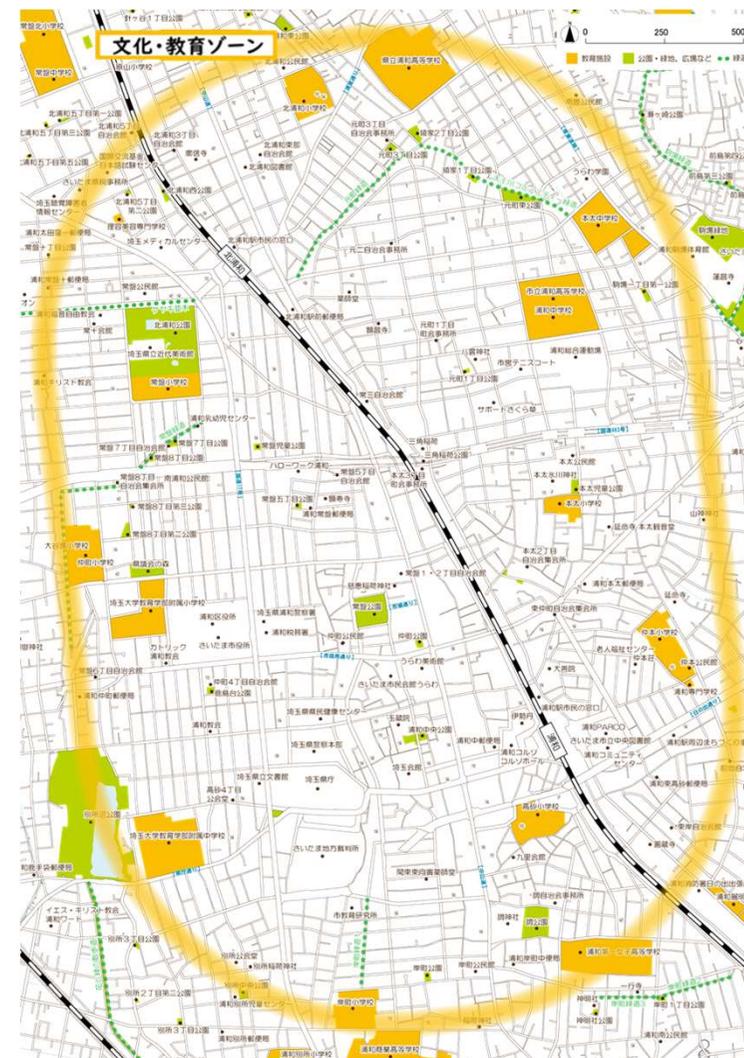
① 教育

■ 歴史

- ・ 「埼玉教育発祥の地」というまちの起源。
- ・ 教員養成機関として埼玉県師範学校(埼玉大学教育学部の前身)が設置。

■ 現状

- ・ 全国有数の進学校である県立浦和高校や、県立浦和第一女子高校などの立地(学力水準が高い)。
- ・ 県内最古の高砂小学校の立地(創立150周年)
- ・ 「文教都市」のイメージがある。
- ・ 「文教ブランド」が人口急増の一因で、特に「子どもの教育環境のよさ」が選ばれる大きな理由。



現庁舎地周辺の現状③

② 文化

■ 歴史

- ・ 「鎌倉文士に浦和絵描き」というまちの起源
- ・ 浦和サッカー発祥のまち
- ・ 渋沢栄一が中心となり県民の力が結集して誕生した「御成婚記念埼玉會館」(後の埼玉会館の場所) が立地

■ 現状

- ・ 「文教都市」のイメージがある。
- ・ 「浦和レッズ」のホームタウンとして全国的に有名。
- ・ 街に溶け込み人の流れの中心を目指した「埼玉会館」の立地(設計者:前川國男)。
- ・ うらわ美術館、近隣の北浦和に県立美術館が立地。
- ・ さいたま市の市民活動の拠点の一つである市民会館うらわが駅前に移転予定(閉館中)。



浦和駅周辺のまちの魅力

① 県庁等が集積する「**県都**」



② 商業・業務施設が集積する「**商業・業務（経済）**」



③ 高砂小学校を代表に歴史・伝統のある「**教育環境**」



④ 「浦和絵描き」の文化や美術館が立地する「**文化・芸術資源**」



▲福原霞外
《浦和常磐町北端米屋の裏》1907年
うらわ美術館蔵

⑤ 浦和レッズに代表される「**サッカー**」



⑥ 子育て世代に選ばれる便利な「**居住・交通環境**」 ⑦ 別所沼公園や常盤公園といった「**緑・憩い空間**」



⑧ 浦和宿、調神社や玉増院等の歴史のある「**中山道・神社仏閣**」

～全ての根底にあり、共通するもの～

浦和のまちを創り・育て・成長させてきた『人』の存在
～URAWAプライド（誇り・愛着）～

浦和のまちの将来像

浦和のまちの将来像として、総合振興計画の浦和駅周辺地区の目指す方向性から2050年のまちの将来像を設定しました。

<まちの将来像>

洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、風格で魅了する都心・浦和

まちの将来像の実現に向けて、“ひと”の“成長”の過程に合わせたまちの観点から、まちの将来像のイメージを3つに設定しました。

<まちの将来像イメージ>

世界に冠たる文教・スポーツのまち

文化・教育・スポーツは、浦和のまち・ひとを象徴する魅力・個性として、
新技術を取り入れながらグローバルな視点で磨き上げていく
(文化・教育、スポーツ(サッカー等))

県都として風格ある暮らしのまち

市民や来訪者から選ばれ、誇り・愛着をもって暮らし続けるために、浦和
のまち・ひとの個性を生かし、DXを活用し磨いていく
(県都、居住・交通環境、商業・業務環境(経済))

誰もが安全安心、快適に活動できるまち

都心のまちとして、スマートシティを目指し、新技術を活用しながら、都
市機能を引き続き維持・向上していく

(緑・景観、安全・安心)

まちづくり方針

目指すまちの将来像を実現するため、まちと人をつなげる都市デザインの考え方から、まちづくりの方針を以下の2つに設定し、この方針を踏まえ、まちづくりの展開を図ります。

【方針1】浦和のまちの魅力が成長するリ・デザイン

- 世界に誇れる魅力の創出、まちのイメージ（風格）につながる浦和の顔の形成や、ライフスタイルに応じた生活圏と交通環境創造により、更なる住みやすく災害に強いまちに向け、人の活動を支えるまちの拠点とネットワークのリ・デザインに取り組み、全国に誇れる先進的なスマートシティ“浦和モデル”を目指し進化していきます。

【方針2】浦和のひとが成長し続ける サステイナブル・サイクル

- 人生100年時代に、3世代が暮らし続けられる生活環境の構築やライフステージにあわせた地域内住み替えで住み続けられる居住環境を目指すなど、デジタルツインを活用し、サステイナブル・サイクルにより進化させていきます。

まちづくりの展開

まちづくりの各展開は、浦和の地域資源を生かしながら、時代の変化へ対応できるよう、官民連携で検討、推進していきます。

また、将来にわたって持続的な成長を維持していくためには、限りある経営資源を選択と集中の視点で重点配分していく必要があることから、“フォアキャスト”と“バックキャスト”の両輪によるハイブリットの考え方から、まちづくりの段階に応じた「選択」と「集中」のまちづくりに取り組みます。

<浦和駅周辺のまちづくりの展開>

【展開1】浦和の文化・教育・スポーツを
日常で体感し、楽しめる場の創出

【展開2】県都・都心にふさわしい、
風格のあるまちの再構築

【展開3】浦和らしい、多様なライフスタイル
を実現できる居住環境の形成

【展開4】誰もが快適に移動できる
ネットワークの強化

その他の展開 まちの環境とサービスの維持・向上

3 新庁舎整備等の検討経緯について



新庁舎移転整備等の経緯

- **平成12年度** ● **合併協定書調印**【平成12(2000)年9月】
「将来の新市の事務所の位置については、さいたま新都心周辺地域が望ましいとの意見を踏まえ、新市成立後、新市は、交通の事情、他の官公署との関係など、市民の利便性を考慮し、将来の新市の事務所の位置について検討するものとする。」
- **平成14年度** ● **新市庁舎庁内検討会議**【平成14(2002)年度～20(2008)年度 計21回開催】
- **平成20年度** ● **さいたま市庁舎整備検討委員会**【平成20(2008)年度～23(2011)年度 計7回開催】
- **平成24年度** ● **さいたま市本庁舎整備審議会**【平成24(2012)年度～29(2017)年度 計21回開催】
- **平成30年度** ● **審議会答申**【平成30(2018)年5月】
- **令和元年度** ● **本庁舎耐震補強工事完了**【平成28(2016)年10月～平成31(2019)年2月】
- **令和元年度** ● **本庁舎整備検討調査**
- **令和元年度** ● **現庁舎に係る現況調査業務**
- **令和2年度** ● **本庁舎整備等に係る基本的な考え方**【令和3(2021)年2月】
- **令和3年度** ● **市民ワークショップ**【令和3(2021)年8月】 ・ **タウンミーティング**【令和3年(2021)10月～11月】
- **令和3年度** ● **基本構想（素案）パブリック・コメント**【令和3(2021)年10月～11月】
- **令和3年度** ● **新庁舎整備等基本構想 策定**【令和3(2021)年12月】
- **令和4年度** ● **市役所本庁舎のさいたま新都心(大宮区北袋町1丁目603番地1)への移転が決定**【令和4(2022)年4月】



新庁舎整備及び現庁舎地利活用の方針

【 新庁舎整備 】

新庁舎の整備場所は、

**さいたま新都心
バスターミナルほか街区**

とし、

**10年後(令和13年度)
を目途に新庁舎を供用開始**

することを目指します。



本市が目指す将来都市構造における位置付け



【 現庁舎地利活用 】

現庁舎地利活用（庁舎移転後、速やかに整備）については、市民サービスの拠点である浦和区役所や浦和消防署の機能を残しつつ、

**多様な世代に愛され、
県都・文教都市にふさわしい
感性豊かな場所とすること**

を目指すべき方向性とし、今後（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョンの検討等を踏まえながら具体化を進めます。

4 本日のワークショップのテーマ

現庁舎地や周辺エリアの魅力
(ポテンシャル) について考えよう



ワークショップの進め方

《目指すゴール》

- ・ 浦和の歴史、まちの魅力や将来像等について学ぶ。
- ・ 現庁舎地の強み、弱みなどを整理することで、この場所のポテンシャルを考える。
- ・ 次回で検討する、現庁舎地にあったらよいもの・サービスについて考える材料とする。



本日の具体的な進め方については、
「資料1 ワークショップの進め方」を
ご覧いただき、

**グループディスカッション
を始めてください。**

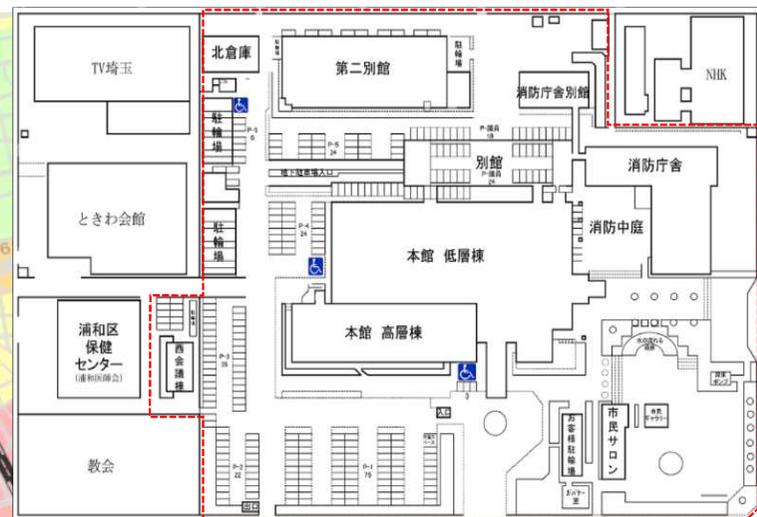


<参考> 現庁舎地周辺の状況 ※詳細は参考資料2を参照

1. 周辺写真 (撮影地点は2の図面中の黒丸)



2. 都市計画図、配置図



凡例	用途地域
黄色、緑色	住居系の用途地域
赤色	商業系の用途地域

※距離は徒歩による一般的な最短経路 (概数)

<現庁舎の規模> 敷地面積 : 34,227㎡

建物	竣工年	構造	延床面積	階数
本庁舎(高層棟)	昭和51年	鉄骨鉄筋コンクリート造	16,505㎡	地上11階(地下2階)
本庁舎(低層棟)	昭和51年	鉄筋コンクリート造	11,621㎡	地上3階(地下1階)